

那 覇 市 教 育 委 員 会 会 議 録

平成22年8月4日開催 平成22年度第9回（定例会）

（非公開）協議「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」

平成24年度第8回教育委員会会議（定例会）（平成24年7月20日開催）の議案第13号「教育委員会会議録の公開について」において、会議録を公開することが決定されたため、これを公開する。

<公開部分>

田端委員長 協議「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」に関しては、市立小中学校の具体的な学校名を挙げて協議を行うことが想定されています。そのため、公開の会議の場で、想定していない学校名などを挙げて協議を進めた場合の市民に対する影響は非常に大きいと考えられます。また、そのことによって、公正な審議が保てないことなどのことも考えられます。したがって、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項」の規定に基づき、非公開とすることが適当であると思われまので、その可否について委員の議決を図りたいと思います。

全 員 異議なし

田端委員長 議決により非公開としますので、関係者以外は退席をお願いします。

新城部長 協議説明

仲程副参事 説明

田端委員長 最終的にいくつの統合を考えているのでしょうか。

新城部長 久茂地小学校と前島小学校の統廃合です。両校を対象にした案があります。大名小学校については地理的な問題などから現段階では難しい状態です。

金城委員 資料4の真嘉比小学校は23年度以降どんどん増えています。そして久茂地小学校も増えている状況で統合して40名学級にもっていくということで、こういった中でも統廃合は進めて、40名学級にもっていくのですか。

仲程副参事 資料1、資料4、資料8の説明

城間委員 学校というのは子どものための環境、より良いための環境作りのために統廃合が必要と言っていましたので、それを反対する親はほとんどいないと思います。一番通学距離が長くなるのは1.1km、通学路の安全確保となると、通学距離が短ければ短いほど安全確保されると思うのですが、現時点の小学校で1.1kmの通学距離がある学校はあるのでしょうか。統廃合された学校だけが1.1kmという長い距離になった場合には理解が得られないと思う。これをどう説明するのかということ。もう1つは跡地利用。地域及び全市的な観点から有効活用するとありますが、地域の人はず自分らの地域のことを優先して言うと思います。地域の人にとってメリットがあるような、自分たちの地域の学校が無くなるので、自分たちの意見を聞いてほしいと思うのですが、まちづくりの観点から既に市長部局の方では何か決まっているのでしよ

うか。

仲程副参事 通学距離の1.1kmの件ですが、基本方針の7ページに、「通学区域の変更については、児童生徒の適切な通学距離、通学時間、通学の安全性に配慮します」とあります。8ページで「通学距離については児童生徒に著しい負担にならないよう配慮することを基本に本市の通学区域設定の基本的な考え方を踏まえ、原則として小学校1km以内、中学校2km以内を目安として通学路の安全を確保に努めます」とあります。本市の通学区域設定の基本的な考え方というのは7ページの中段に米印であります。統廃合することによって通学区域は広くなる訳ですから、通学距離が長くなる子ども達もいます。原則として1km以内を目安としてありますので、これは通学の距離の問題としては、特に問題ないだろうと考えています。小学校の最多の通学距離は1.3kmというのが7校あります。これは電子地図から道なりで計っています。最小は0.7kmで3校あります。最大値は1.7kmで高良小学校にあります。それを考えますと1.1kmというのは問題ないだろうと思います。基本的にこの辺りは平坦。ただ、車の往来が激しいところはありますが、基本的に安全と考えられます。ちなみに天久小学校の最長通学距離は1.5kmです。

新城部長 跡地利用に関しては、総合的な那覇市のまちづくりの観点から現段階で案があるかないかと言えば、案はあります。まだ明確には申し上げられませんが、那覇市の公共施設という意味ではありますが、それが実現するかというのはこれから検討することになります。私ども教育委員会は学校間格差を解消するという意味での適正配置、統廃合ということで地域関係者の皆さんに説明をします。その結果、統廃合によって空いた土地利用となります。そういった意味では市長部局と意見交換をし、今後も緻密にやっていく予定です。しかし、このことが跡地利用ありきの統廃合と理解する方も出てきますので、そこが非常に難しいところで今後の大きな課題となります。

城間委員 何度も言いますが、学校というのは第一には子どものためにあり、そこを地域や社会教育に開放して使っていますが、学校にいる子ども達のためには何が良いかと言ったとき、子ども達の教育環境には、物理的な数、教師の数などが子どものより良い成長に繋がっていくということのを全面的に出す必要があると思います。

新城部長 全体像をどのタイミングで示すか、という話になってきます。学校統合以外で、この地域で大きな課題となっていることが久茂地公民館、図書館です。学校の統廃合の問題、社会教育施設としての建物が無くなるという問題、これらを含めると、全体のまちづくりとしての問題が教育委員会に覆いかぶさってきます。学校統廃合とは別ですが、久茂地公民館、図書館の件で関係者に説明会を持った時に、いろいろ意見ができました。その中で、まちづくりのためにここを無くして、商業施設が必要という話もありました。そういった意味では地域活性化のためには様々な考え方がありました。学校についても統廃合をして、ここをどうしようという意見が強くでる可能性もあります。

田端委員長 今は何名のグループの方でこの仕事をしていますか。

新城部長 この計画は総務課が所管しておりますが、学校教育部との密接な連携を取りながら進めております。現在の担当者は1名ですが、地域説明会などは学校教育課、学務課、両部長など13名ほどで望むだろうと思います。

田端委員長 都市計画の方や学校教育の専門家、学識者も入ったらどうでしょうか。

新城部長 都市計画の観点から当該管轄部署から当然出席しますが、どの段階からというのが先ほど話しましたように難しいところです。

田端委員長 本日はこの辺でよろしいでしょうか。それでは、協議「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」は、審議未了により、那覇市教育委員会会議規則第19条を適用し継続審議とすることが適当だと思われまますので、その可否について委員の議決を諮りたいと思います。

全 員 異議なし

田端委員長 協議「那覇市立学校適正配置計画素案の策定について」は、次回の教育委員会会議の継続審議とします。非公開を解きます。